

佐賀・長崎「体験の風をおこそう」運動推進事業
 家族で体験フェスティバル 2022 ～自然体験 × スポーツ × SDGs～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

（企画・運営） 佐賀・長崎「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会

〔期日〕 令和4年10月22日（土）～23日（日）

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 【10/22（土）：宿泊】【10/22（土）：日帰り】【10/23（日）：日帰り】

	男	女	計	男	女	計	男	女	計
未就学児	0	3	3	10	16	26	22	17	39
小学生	4	7	11	13	12	25	20	33	53
中学生	0	0	0	0	0	0	1	1	2
大人	7	10	17	20	23	43	31	48	79
合計	11	20	31	43	51	94	74	99	173

〔協力団体〕 長崎県立希望が丘高等特別支援学校和太鼓部、ガールスカウト長崎県連盟、日本ボーイスカウト長崎県連盟長崎第8団、日本ボーイスカウト長崎県連盟大村第1団、長崎県シェアリングネイチャー協会、長崎県レクリエーション協会、NPO法人インフィニティー、ルノン株式会社、鷹匠、バルーンアートほっと、諫早市子ども会育成連合会、長田地区婦人会、北山少年自然の家、黒髪少年自然の家、波戸岬少年自然の家、西彼青年の家、佐世保青少年の天地、日吉自然の家、諫早市こどもの城、コスモス花宇宙館

〔担当職員〕 全職員

1) 趣旨

家族で様々な体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。

また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における体験活動の定着・発展を推進する。

2) 目標

- ①多くの家族に体験活動の楽しさを知ってほしい。
- ②多くの団体と連携して、活動を提供したい。
- ③体験活動の重要性の普及と啓発を図る。

3) プログラム

1日目	
9:30	受付
10:00	オープニングセレモニー（1日目：長崎県立希望が丘高等特別支援学校和太鼓部） （2日目：道辻結那さん with コーチ ミニコンサート）

10:30 活動開始 ※途中退館自由

- ・オリンピックレガシー巡回展示
- ・キャンプ体験 [テント・スラックライン、たき火（火おこし）・ハンモック]
- ・自然体験 [ネイチャーゲーム、ロープワーク・火おこし体験、野点（アウトドア茶道）、バードパフォーマンス、ディスクゴルフ、ミニオリエンテーリング]
- ・あそぶ・まなぶ [手旗信号体験、薪投げゲーム（クップ、モルック）、スポーツチャンバラ、遊びリンピック、SDGsラリー]
- ・つくる[ドリームキャッチャー・紙トンボ、手作りクラフト、バルーンアート、丸太のマグネット、ブンブンごま、ペットボトルキャップごま、木工細工、グラスサンドアート、オリジナルコースター]
- ・食べる（食事）ブース[軽食販売、カレーライス]

15:30 終了

4) SDGsで目指す姿



目標4 質の高い教育をみんなに

家族で様々な体験活動の楽しさを体感してもらい、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。

目標12 つくる責任、つかう責任

体験活動を通じて、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに意識を持つようにする。

目標15 陸の豊かさも守ろう

体験活動を通して、森林、山地等の陸域生態系のサービスの保全、回復及び持続可能な利用に意識を持つようにする。

目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

事業実施を通して、多くの関係団体の経験やノウハウを基とした、効果的なパートナーシップを推進する。

5) 事業展開

①オリンピックレガシー巡回展示



③長崎県立希望が丘高等特別
支援学校和太鼓部



④道辻結那さん with コーチ
ミニコンサート



②遊びリンピック



⑤キャンプ体験



⑥ネイチャーゲーム体験



⑦火おこし体験



⑧バードパフォーマンス



⑨手旗信号体験



⑩SDGsラリー



⑪ドリームキャッチャーづくり



5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
96%	4%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ 初参加でしたが、小さい子でも楽しめるよう声掛けしてもらい、とても楽しく過ごすことができました。キャンプなどでまた来たいと思います。
- ・ 昨年も楽しかったので今回も参加しました。いろいろな体験ができて体も動かして良い経験ができました。来年もぜひ参加したいです。
- ・ オープニングにとっても感動です。毎年楽しみで、もっと多くの人に来てほしいイベントです。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ 昨年度の日帰り2日間開催に加え、宿泊受入れ、事前申込み家族数の増加ができ、より多くの家族に体験活動の場を提供することができた。
- ・ 新規の協力団体とバードパフォーマンス、オリジナルコースター、バルーンアートの活動を提供できた。

② 課題

- ・ 事前申込みの定員に関して、活動数、レストランの座席数、駐車場の台数等を考慮して設定したが、複数台で来所する家族も多く、駐車場が混雑した。
- ・ 申込み締切に申込者が定員に達しなかったため、期間を延長して広報を行った。SNSを主にした事業広報としたため、費用対効果とのバランスも含めて今後も広報手段を検討したい。